

令和3年9月11日（土）

日 本 緑 化 工 学 会

令 和 3 年 通 常 総 会

オンライン開催

<http://www.jsrt.jp/>

－ 次 第 －

議 案

- （１） 第一号議案 令和２年度事業報告
- （２） 第二号議案 令和２年度決算報告
- （３） 第三号議案 令和３年度事業計画
- （４） 第四号議案 令和３年度収支予算
- （５） 第五号議案 役員の改選
- （６） その他

第一号議案

日本緑化工学会 令和2年度事業報告

(令和2年／2020年8月1日～令和3年／2021年7月31日)

1. 第51回日本緑化工学会大会 岩手 Web 大会

開催年月日：コア実施日：2020年9月5～6日 Web 掲示板討議期間：9月5～13日

開催方法： オンラインにて開催

＜Web 大会サイト＞ Web 掲示板討議、研究集会 (Zoom)、シンポジウム (Zoom+YouTube 配信)、
資材・工法 企業リンク集、いわて震災復興情報ギャラリーの構成とした。

発表題数： 66 題 (論文部門 11 件、技術報告部門 30 件、研究交流発表部門 25 件)

参加者数：171 名

正会員・賛助会員 117 名，学生会員 24 名，一般（非会員）19 名，学生（非会員）11 名

資材工法 企業リンク：さくま書店、賛助会員ほか 10 社

優秀ペーパー賞：Web 掲示板討議では、論文・技術報告は本文、研究交流発表は要旨を元に討議を行った。そのため例年優秀ポスター賞として実施していたものを「優秀ペーパー賞」として実施した。

(補足) 震災後 10 年を迎える岩手での大会であることから、外部講師を招く前提でシンポジウムのコンセプトを「震災復興と緑化の役割」とし、エクスカーショで陸前高田を訪れる方向に決定していたが、新型コロナウイルスの広がりを受け、現地開催の中止を判断する時期を検討、代替方法としての Web 大会形式を含む案を作成検討した結果、全面的にオンライン開催とした。

2. シンポジウム

(1) 第51回大会 公開シンポジウム (Web)

テーマ：「震災復興とグリーンインフラ」

開催年月日：2020年9月5日（土）13：00-15：30

開催場所：Zoom（ウェビナー）+YouTube ライブ配信（終了後 1 ヶ月 YouTube 上で動画公開）

視聴者数：ライブ配信時約 120 名（終了後 556 名）

3. 現地見学会

(1) 第51回大会現地見学会中止にて「岩手震災復興情報ギャラリー」を大会 Web サイト上に開設

内容：会員が撮影した、震災直後から現在の写真と震災復興に関する Web リンク集

4. 研究会等（研究部会主催）

(1) 生態・環境緑化研究部会

①第51回大会（岩手 Web 大会）にて研究集会を開催

開催日時：2020年9月6日 16：00～18：00

開催場所：Web（Zoom ウェビナー）

テーマ： 地域性種苗の活用促進，災害や気候変動への対応，大規模開発と緑化技術

視聴者数：80 名

②「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」関連の活動（阿蘇ワーキングチーム）

○ 2020 年も 2019 年までとほぼ同内容の現地活動を予定していたものの 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により多人数で行う活動は難しいため、草原の崩壊修復や維持管理にかかわる調査を中心にした現地活動を実施

○ 環境省九州地方環境事務所阿蘇くじゅう国立公園管理事務所とススキを中心に地域性種苗活用のための共同調査を実施

(2) 乾燥地緑化研究部会

公開シンポジウム「乾燥地における植物の生理生態と緑化」を企画していたが、新型コロナの状況を踏まえつつ、今後の開催について可能性を検討。2022 年の 1 月～3 月の間での開催に向けて準備。

(3) 緑・健康研究部会

①第 51 回大会（岩手 Web 大会）において研究集会を実施

開催日時；2020 年 9 月 5 日 16:30～18:30

開催方法：Web（Zoom ウェビナー）

テーマ：コロナ禍における緑地の利用状況と住民の健康を考慮した今後の展開

視聴者数：70 名

②緑化工学会誌 46 巻 2 号における特集の企画と執筆

緑化工学会誌 46 巻 2 号において、特集「コロナ禍における緑地の利用状況と住民の健康を考慮した今後の展開」を企画し、部会メンバー全員が執筆した。

(4) 生物多様性緑化研究部会

ナラ枯れとその周辺課題について考える、連続講演会を（共催団体として）毎月 1 回オンライン・zoom で開催 主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室 後援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

第 1 回 2021 年 1 月 22 日「連続講演会の趣旨 について」倉本 宣

第 2 回 2021 年 2 月 24 日「ナラ枯れ時代の里山林管理－薪ストーブによる里山林の使い直し」
奥 敬一

第 3 回 2021 年 3 月 30 日「鳥取県立大山オオタカの森におけるオオタカ保全と用材林育成の両立
を目指したマツ林管理」末次優花

第 4 回 2021 年 4 月 27 日「ナラ枯れとその周辺課題にかかわる物の値段」松本 薫

第 5 回 2021 年 5 月 26 日「都市公園『帯広の森』の育成管理と間伐材の活用」宮崎直美

第 6 回 2021 年 6 月 9 日「マツ枯れと植生変化」藤原道郎

第 7 回 2021 年 7 月 7 日「雑木林が優占する前の植生景観－明治前期のころ－」小椋純一

(5) 海岸林・沿岸域緑化研究部会 第 3 回公開勉強会【オンライン】の開催

テーマ：東日本大震災 10 年 砂浜～海岸林の復興のいま

開催日時：2021 年 6 月 10 日（木）17:00～18:30

開催場所：Web（Zoom）

参加人数：60 名

(6) 斜面緑化研究部会

現地見学会の実施を検討していたが、新型コロナの状況を踏まえて次期再調整することに決定した。

(7) 第 51 回大会（岩手 Web 大会）にて研究集会を開催

企画担当者：森本淳子・小林達明・岡浩平・吉崎真司（グリーンインフラ関連研究有志）

開催日時： 2020 年 9 月 6 日 13:00～15:00

開催場所： Web（Zoom ウェビナー）

テーマ： グリーンインフラ活用に向けた生態系のレジリエンス評価

視聴者数： 89 名

5. 学会誌の発行

- (1) 第 46 巻 1 号 (デジタル版+冊子版)：令和 2 年 8 月 31 日発行 190 ページ(第 51 回大会特集号)
- (2) 第 46 巻 2 号 (冊子版)：令和 2 年 11 月 30 日発行 96 ページ
- (3) 第 46 巻 3 号 (冊子版)：令和 3 年 2 月 28 日発行 72 ページ
- (4) 第 46 巻 4 号 (冊子版)：令和 3 年 5 月 31 日発行 71 ページ

※第 46 巻 2 号：「コロナ禍における緑地の利用状況と住民の健康を考慮した今後の展開」を特集

第 46 巻 3 号より、新連載「緑化学における統計学の利用」を開始

第 46 巻 4 号：「緑地とグリーンインフラー緑化学からの新たな展開」を特集

5-2. 投稿審査システム (Editorial Manager) 導入の検討

安定した刊行を維持するため、オンラインによる投稿審査システム (Editorial Manager) 導入の検討を開始した。

6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行

- (1) Vol. 16 No. 4 : 2020 年 10 月発行 (6 編)
- (2) Vol. 17 No. 1 : 2021 年 1 月発行 (5 編)
- (3) Vol. 17 No. 2 : 2021 年 4 月発行 (14 編)
- (4) Vol. 17 No. 3 : 2021 年 7 月発行 (15 編)

※2019 年発行分より、LEE 誌はオンラインジャーナルとして発行されている。

<https://link.springer.com/journal/11355/volumes-and-issues>

7. 令和 2 年度日本緑化工学会賞の授与

研究奨励賞： 人見 拓哉 氏

「都市化に伴う緑地土壌での有機物分解特性の変化」

※昨年の学会賞受賞対象者について、2021 年大会サイトおよび本部ホームページで授賞あいさつ／研究紹介等の動画を掲載予定。

8. CPD

第 51 回日本緑化工学会大会の公開シンポジウムおよび 3 件の研究集会を森林・自然環境技術者教育会(JAFEE)の CPD プログラムとして登録した。最終的に 20 名の参加者に CPD ポイントを付与した(内 9 名が森林分野)。CPD 希望者の内約半数が非会員であったことから、大会参加者を増やす 1 つの方法として有効だと考えられる。

9. 学会広報事業

- (1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

(3) メールによる案内「ニュースメール」の配信

アドレスが登録されている個人会員と、登録要請のあった賛助会員へ連絡事項を配信

10. 研究部門におけるその他活動

(1) 防災学術連携体における活動

1) 防災学術連携体 臨時総会（2021 年 4 月 20 日（火）開催）に参加

防災学術連携体 2021 年度総会（2021 年 8 月 6 日（金））に参加

2) 各種集会等の告知と参加

・ 防災推進国民大会 2020 シンポジウム参加の告知

・ 第 11 回防災学術連携シンポジウムで発表[発表者：岩手県立大学島田会員]

開催日： 2021 年 1 月 14 日（木）

・ 日本地球惑星科学連合・防災学術連携体合同企画のパブリックセッションに参加
「変化する気候下での強風・豪雨災害にどう取り組むか」

開催日： 2021 年 6 月 6 日（日）

11. 緑化植物の取り扱い方の検討

緑化植物委員会では、「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言 2019」の周知を目的としたリーフレットを作成し、学会員・関係機関への配布と学会ウェブサイトへの掲載を行った。また、2020 年 12 月 18 日、2021 年 1 月 24 日、2 月 19 日、3 月 9 日、5 月 27 日、6 月 25 日、7 月 30 日に計 7 回の会議を開催し、提言 2019 のビジョンの実現に向けたガイドラインの内容について議論を行った。

12. その他事業

他団体等からの依頼に応じて適宜後援、広報に協力（令和 2 年度は後援行事は該当なし）

13. 会員数（令和 3 年 7 月末現在。括弧内は←前年度末，←前々年度末，←前々々年度末 の数）

(1) 名誉会員：9 名（←8 名 ← 8 名 ← 6 名）

(2) 正会員：560 名（←569 名 ← 573 名 ← 604 名）

(3) 学生会員：65 名（←80 名 ← 72 名 ← 102 名）

(4) 賛助会員：53 団体（←51 団体 ← 51 団体 ← 53 団体）

(5) 購読会員：33 団体（←35 団体 ← 34 団体 ← 35 団体）

※ 大会発表のため入会する学生会員に対する会費の優遇措置を、2015 年度より実施，継続

令和2(2020年)度 収支報告書

(2020年8月1日～2021年7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収 入 の 部	正会員費	4,000,000	4,641,980	641,980	116.05	正 会 員 567名 / 今年度入金 580名 (@8,000)
	賛助会員費	1,820,000	1,820,000	0	100.00	賛助会員 53団体 / 今年度入金 52団体 (@35,000)
	購読会員費	280,000	288,000	8,000	102.86	購読会員 33団体 / 今年度入金 36団体 (@8,000)
	学生会員費	220,000	200,000	-20,000	90.91	学生会員 68名 / 今年度入金 50名 (@4,000)
	入会登録料	31,500	24,500	-7,000	77.78	35名 (@700)
	英文誌購読料	330,000	328,170	-1,830	99.45	
	投 稿 料	500,000	587,330	87,330	117.47	Vol.46-1～Vol.46-4 分
	広 告 料	1,450,000	1,290,000	-160,000	88.97	Vol.46-1～Vol.46-4 分
	雑 収 入	900,000	1,276,912	376,912	141.88	別刷・BN販売収入(46(1):販売2冊・大会運営委員会送付26冊)、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小 計	9,531,500	10,456,892	925,392	109.71	
	繰 越 金	3,373,234	3,373,234			
	合 計	12,904,734	13,830,126	925,392	107.17	
支 出 の 部	会 議 費	50,000	0	-50,000	0.00	会議室借上費 他
	旅費交通費	100,000	0	-100,000	0.00	理事会交通費
	事務人件費	300,000	171,095	-128,905	57.03	本部経費、総務部会事務費、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通 信 費	700,000	554,984	-145,016	79.28	会誌・会費請求書送付費、電話・FAX料
	事務用品費	100,000	102,234	2,234	102.23	学会賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	3,400,000	4,887,270	1,487,270	143.74	PDF作成費46(1)¥82,221、編集制作費46(1)¥1,324,290、46(2)¥1,282,683、46(3)¥953,508、46(4)¥904,668、J-Stage登録費45(4)¥44,000、46(1)¥204,600、46(2)¥64,900、46(3)¥26,400
	英文誌出版分担金	680,000	466,800	-213,200	68.65	英文誌出版分担金、英文誌購読料、英文誌刊行事務委託費
	大会補助費	100,000	0	-100,000	0.00	大会開催補助費
	シンポジウム・見学会補助費	100,000	0	-100,000	0.00	
	研究部会補助費	50,000	0	-50,000	0.00	
	委員会等経費	400,000	40,693	-359,307	10.17	編集委員会、大会誌編集委員会、緑化植物委員会
	事務委託費	1,700,000	1,912,460	212,460	112.50	学会事務業務委託費(会員入退会、会費徴収、会計事務業務等)、¥478,115×4期
	CPD等経費	0	0	0	-	
	諸会費	160,000	160,000	0	100.00	ABEE、JAFEE、防災学術連携体
	震災特別対策費	25,000	0	-25,000	0.00	震災調査費用
	雑費	30,000	8,869	-21,131	29.56	振込手数料 他
	基金積み立て	1,130,000	1,130,000	0	100.00	CPD協議会解散に伴う分配金¥1,131,100
	小 計	9,025,000	9,434,405	409,405		
	予備費	3,879,734	4,395,721	515,987	113.30	
	合 計	12,904,734	13,830,126	925,392	107.17	

次期繰越金		4,395,721
-------	--	-----------

2020年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2021年8月19日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久



2020年度 貸借対照表 (和文誌・英文誌)

2021年 7月 31日現在

借 方		貸 方	
科 目	金 額	科 目	金 額
現 金	26,627	前受金	1,621,770
預 け 金	6,398,714	仮受金	16,000
未 収 金	738,150	次期繰越金	5,525,721
合 計	7,163,491	合 計	7,163,491

－ 財 産 目 録 －

資産の部

科 目	摘 要	金 額
現 金	事務局	26,627
預 け 金	みずほ銀行 本郷支店	2,668,786
	本郷郵便局	2,599,928
	三井住友	1,130,000
	小 計	6,398,714
未 収 金	BN販売	6,350
	別刷り代	17,800
	投稿料	71,000
	会費	313,000
	広告費	330,000
	小 計	738,150
合 計		7,163,491

負債の部

科 目	摘 要	金 額
前受金	正会員	1,431,000
	学生会員	84,000
	英文購読料	71,770
	賛助会員費	35,000
	小 計	1,621,770
仮受金	誤払い	16,000
	小 計	16,000
合 計		1,637,770

－ 会計監査報告 －

2020年度(2020年 8月 1日 ～ 2021年 7月31日) 収支決算報告書および財産目録に基づき、帳簿類を監査したところ、適正であることを認めます。

2021年8月19日

2021年度 日本緑化工学会

同上

監事 中野裕司

監事 福永健司



2020年度 基金 収支報告書

(2020年 8月 1日 ~ 2021年 7月31日)

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	決算額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収 入 の 部	前期より繰り越し	0	0	0	-	
	利子収入	5	0	-5	0.00	
	一般会計より戻し入れ	1,130,000	1,130,000	0	100.00	新規積み立て
	合 計	1,130,005	1,130,000	-5	100.00	
支 出 の 部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	0	-	

次期繰越金		1,130,000
-------	--	-----------

2020年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト収支報告

2020年4月1日～2021年3月31日

日本緑化工学会 生態・環境緑化研究部会

	費 目	決算額	摘 要
収入の部	公財自然保護助成基金 助成金	1,000,000	2020年4月 公益財団法人自然保護基金より入金
	雑収入	750	
	繰越金	0	
	合 計	1,000,750	
支出の部	消耗品費	29,739	資材購入費用等
	委託費	100,000	
	賃金・謝金	188,000	謝金等
	旅費	422,819	現地活動旅費、移動費用
	交通・通信・運搬費	101,232	宅配料金、現地輸送費
	印刷費	0	
	会議費	14,000	会場使用料
	雑経費	3,060	振込手数料
	小 計	858,850	助成期間は2年間のため継続中。確定(終了)は2022年5月予定
	未払い金(種子検査費用)	141,900	2021年8月中に精算分
	合 計	1,000,750	
次期繰越金		0	

※2021年4月に2021年度分助成金が入金

2020年度 阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクトの収支決算内容を上記のとおりご報告申し上げます。

2021年7月1日

収支及び根拠資料を確認し、会長へ提出しました。

2021年9月4日

経理部会長 入山義久



阿蘇プロジェクトの収支及び根拠資料について、適正に処理されていることを確認しました。

2021年9月4日

会長 吉崎真司



第三号議案

日本緑化工学会 令和3年度事業計画（案）

（令和3/2021年8月1日～令和4/2022年7月31日）

1. 第52回日本緑化工学会 Web 大会

開催年月日： 令和3年9月4日～12日

開催方法： Web 掲示板等による発表・討議

発表題数： 74題（論文22件，技術報告22件，研究交流発表30件）

第52回大会シンポジウム「自然環境と健康な街づくりー疫学調査を用いた研究事例紹介ー」（9月11日）を開催

※ 第53回大会は3学会合同大会「ELR2022」として，関東地方にて開催予定。

（幹事学会：応用生態工学会）

※ 2021 ICLEE Conference（International Consortium of Landscape and Ecological Engineering 主催）が11月26日～27日に台北（中華民国）にてオンライン開催予定

2. 研究会等

(1) 都市緑化技術研究部会

・ 第52回日本緑化工学会にて，研究集会を企画

開催日時：2021年9月12日（日） 14：15～15：45

テーマ：緑地の保水能とグリーンインフラ

(2) 生態・環境緑化研究部会

① 第52回大会にて研究集会を開催

開催日時： 2021年9月10日（金）16：30～18：00

テーマ：実例・研究紹介ー地域活性化、地域性種苗使用の主流化を進めるには

② 「阿蘇小規模崩壊地復元プロジェクト」の継続

活動経費について：研究部会で助成を申請。その他原則として各自活動費を確保。

＜公益財団法人自然保護助成基金 2020年度協力型助成＞採択（2020年4月～2022年3月）

③ 環境省阿蘇くじゅう国立公園管理事務所と連携して地域性種苗の利活用促進に関する活動を継続

(3) 積雪寒冷地緑化研究部会

・ 第52回日本緑化工学会にて，研究集会を企画

開催日時：2021年9月11日（土）15：30～17：00

テーマ：積雪寒冷地の法面保全に向けて一植生工の補強効果とその限界ー

(4) 緑・健康研究部会

・ 第52回日本緑化工学会にて，研究集会を企画

開催日時：2021年9月12日（日）12：30～14：00

テーマ：医療空間と緑化

(5) 生物多様性緑化研究部会

ナラ枯れとその周辺課題について考える、連続講演会（共催団体として）毎月1回オンライン開催

主催：明治大学農学部応用植物生態学研究室、後援：一般財団法人世田谷トラストまちづくり

第8回：2021年8月4日「参加者からのフィールド報告(1)」
第9回：2021年9月15日「参加者からのフィールド報告(2)」
その後も月1回程度開催予定

(6) 乾燥地緑化研究部会

- ・シンポジウムを企画（オンライン開催）
開催日時：2022年1月～3月の間で開催予定
テーマ：「乾燥地における植物の生理生態と緑化」

(7) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

- ・47巻2号（2021年11月発行）にて特集記事の掲載予定
テーマ：東日本大震災10年ー海岸林の復興とその先へー
- ・第4～6回の公開勉強会の開催
3～4ヶ月に1回の頻度で、オンラインの公開勉強会を予定

(8) 斜面緑化研究部会

- ・現地見学会の実施を検討する。

(9) 第52回日本緑化工学会 企画研究集会

- ①企画担当：小宅由似会員
開催日時：2021年9月11日(土) 17:10～18:45
テーマ：植生回復の目標の置き方について考える
- ②企画担当：森本淳子会員、岡浩平会員
開催日時：2021年9月12日(日) 16:00～17:30
テーマ：生態的レジリエンスとグリーンインフラ

(現在活動中の研究部会)

斜面緑化研究部会	都市緑化技術研究部会	生態・環境緑化研究部会
乾燥地緑化研究部会	積雪寒冷地緑化研究部会	緑・健康研究部会
生物多様性緑化研究部会	海岸林・沿岸域緑化研究部会	

3. シンポジウム

- (1) 第52回大会シンポジウム
開催予定年月日：2021年9月11日(土) 12:30～15:00
開催地：オンライン開催
テーマ：「自然環境と健康な街づくりー疫学調査を用いた研究事例紹介ー」
- (2) その他、企画シンポジウムの年1回以上の開催を企画する。

4. 現地見学会

コロナ禍の状況を見ながら、年1回以上の開催を企画する。

5. 学会誌の発行：4回発行予定（第47巻1号～4号）

第47巻1号（デジタル版＋冊子版）：令和3年8月31日発行 310ページ（第52回大会特集号）
第47巻2号：令和3年11月末 発行予定

第 47 巻 3 号：令和 4 年 2 月末 発行予定

第 47 巻 4 号：令和 4 年 5 月末 発行予定

5-2. 学会誌の電子化と投稿審査システム (Editorial Manager) 導入

今後の学会財政健全化と学会誌の安定した刊行を目的として、オンラインによる投稿審査システム (Editorial Manager) 導入と学会誌第 48 巻第 1 号以後の学会誌の完全電子化を図る。令和 3 年度はそのための準備期間と位置づける。

6. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering の発行：

4 回発行予定 (Vol. 17 No. 4, Vol. 18 No. 1, No. 2, No. 3)

7. 学会賞の授与

令和 3 年度日本緑化工学会賞の授与を行う (令和 4 年総会にて授与予定)。

8. CPD

第 52 回日本緑化工学会大会の公開シンポジウムおよび研究集会などを森林・自然環境技術者教育会 (JAFEE) の CPD プログラムとして登録し、CPD ポイントを付与する。

9. 学会広報事業

- (1) HP 運営ワーキンググループによるホームページの運営
- (2) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、体制確保
- (3) 公式ブログの運営と記事の企画・収集 <http://blog.canpan.info/jsrt/>

10. 緑化植物の取り扱い方の検討

緑化植物委員会において会議を 4 回程度開催し、「生物多様性保全のための緑化植物の取り扱い方に関する提言 2019」のビジョンの実現に向けたガイドラインの作成を進める。大会では研究集会を開催し、検討中の緑化植物材料選定の考え方 (案) について学会員から意見を収集する。

11. その他

- (1) コロナ禍での学会活動を円滑に行うため、ZOOM の年間契約を行う。
- (2) 防災学術連携体における活動
 - 1.) 総会、WEB研究会及び連絡会に参加。
 - 2.) 防災学術連携体からの参加募集の中で日本緑化工学会が参加できる内容を告知し、随時対応。
- (3) 厚生労働省の倫理審査委員会報告システムを参考に、本学会の「研究倫理」について検討する。
- (4) 引き続き、本学会の財政健全化に継続的に取り組む。

令和3(2021)年度 予算書（案）

令和 3年 8月 1日 ～ 令和 4年 7月31日

日本緑化工学会

	費 目	予算額 (A)	令和 2 年度 決算額 (B)	決算額との 差額	摘 要
収 入 の 部	正会員費	4,400,000	4,641,980	-241,980	550名@8,000
	賛助会員費	1,820,000	1,820,000	0	52団体@35,000
	購読会員費	280,000	288,000	-8,000	35団体@8,000
	学生会員費	200,000	200,000	0	50名@4,000
	入会登録料	24,500	24,500	0	35名@700
	英文誌購読料	330,000	328,170	1,830	
	投 稿 料	500,000	587,330	-87,330	
	広 告 料	1,300,000	1,290,000	10,000	
	雑 収 入	1,000,000	1,276,912	-276,912	別刷・BN販売収入、著作権使用料、J-Stage有料閲覧費、利息等
	小 計	9,854,500	10,456,892	-602,392	
	繰 越 金	4,395,721	3,373,234	1,022,487	
	合 計	14,250,221	13,830,126	420,095	
支 出 の 部	会 議 費	50,000	0	50,000	理事会 会議室借上げ費
	旅費交通費	100,000	0	100,000	理事会 交通費、対面開催は1回とし、他はWeb会議・メール会議とする
	事務人件費	215,000	171,095	43,905	口座振替システム基本料金、HP・ML管理費、サーバレンタル料
	通 信 費	700,000	554,984	145,016	会誌・会費請求書発送費、電話・FAX料、Zoom新規契約
	事務用品費	100,000	102,234	-2,234	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品費
	学会誌刊行費	4,900,000	4,887,270	12,730	学会誌編集・製作委託費（大会号をオンライン化、希望者は冊子）、J-Stage登録費用
	英文誌出版分担金	500,000	466,800	33,200	英文誌出版分担金、英文誌購読料、英文誌刊行事務委託費
	大会補助費	200,000	0	200,000	大会開催補助費
	研究部会補助費	200,000	0	200,000	
	委員会等経費	400,000	40,693	359,307	会議室使用料・旅費、編集委員会（通常号）・編集委員会（大会号論文部門・技術報告部門）・緑化植物委員会
	事務委託費	1,920,000	1,912,460	7,540	学会事務業務委託費（会員入退会、会費徴収、会計事務業務等）
	諸会費	160,000	160,000	0	JABEE、JAFEE、防災学術連携体
	災害特別対策費	25,000	0	25,000	災害調査費用 他
	雑費	30,000	8,869	21,131	振込手数料 他
	基金積み立て	0	1,130,000	-1,130,000	
	小 計	9,500,000	9,434,405	65,595	
	予備費	4,750,221	4,395,721	354,500	
	合 計	14,250,221	13,830,126	420,095	

2021年9月4日

日本緑化工学会経理担当理事 入山 義久

2021年度 基金 予算（案）

	勘定科目	予算額	備考
収入の部	前期より繰り越し	1,130,000	
	利子収入	5	
	一般会計より戻し入れ	0	
	合 計	1,130,005	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	0	
	一般会計へ貸し出し	0	
	合 計	0	残高予定 ¥ 1,130,005